

25

2002.4

LET'S PLAY

Indiaca

Japan Indiaca Association

● (社)日本インディアカ協会

社団法人 日本インディアカ協会

平成14年度事業計画 (概要)

2001年3月に日本インディアカ協会の拠点を水道橋西口会館に移してから、まる1年が経過した。(財)日本レクリエーション協会と同じ会館ということで、インディアカ関係者はもとより、レクリエーション関係者の訪問やマスコミ関係者の取材が増加し、移転が良い結果を生んでいる。

平成14年度は、我が協会を支えている会員、公認審判員の資格有効期限延長(2年から3年に)が一部を除いて完了する年である。これにより更新者が多少減少することは予測されるが、新しいインディアカ愛好者を拡大し、少しでもその穴を埋める努力をしなければならない。しかし都道府県協会並びに日本協会の事務量はかなり軽減されることになり、そのメリットは大きい。

そして、昨年10月から会員証、資格証の発行を外注せず新しく機械を導入し、事務局内で作成することになった。これにより、資格証発行にかなりの時間を要し、都道府県協会並びに会員・審判員に多大のご迷惑をかけていたが、現在はかなりスピードアップしているので今後は事務の円滑化が期待できる。

一方、ふれあい・交流・レクリエーションとしてのインディアカは20年を超える啓蒙運動の結果、都道府県をはじめ市町村にも浸透してきている。

市町村協会が市町村大会にとどまらず、他の市町村あるいは他の都道府県に所属するクラブに呼びかけ、ふれあい・交流大会が実施されていることは、枚挙にいとまがない。これは市町村協会が実力を持ってきた証であるし、その努力を評価したいと考える。

ふれあい・交流大会と銘打って開催されている大会の中での競技を見てみると、そこにはふれあい・交流を超えたスポーツ競技が存在していることも事実であり、インディアカがスポーツとして成長したことを物語っている。

新しい世紀を迎えている今日、ふれあい・交流・仲間づくりのインディアカに加えてスポーツとしてのインディアカに目を向ける時が来たと思われる。

組織の充実発展は、ふれあい・交流・レクリエーションだけのインディアカでは実現できないし、スポーツとしてのインディアカだけでも実現できない。市民の多様なニーズに応えられる幅の広いインディアカを展開しなければならない。

ふれあい・交流・レクリエーションとしてのインディアカと純粋にスポーツとしてのインディアカを包含した活動を組織的に展開する時期が到来していると考えられる。

【競技会の開催】

【各種全国大会】

●『第9回(2002)ジャパンフレンドシップインディアカリーグマッチ』

・2002年6月9日(日) 東京体育館

112チーム(600名)

(社)日本インディアカ協会の個人会員、公認審判員を対象にして毎年1回開催され、日頃の練習の成果の発表の場として、会員相互の親睦・交流の場として評判の高い大会である。

今回は、従来の「ふれあい・交流の部」に加えて「第1回ワールドカップ」の日本代表を選出するため、「オープン選手権の部」を設けて実施する。

●『第5回全日本シニアインディアカ大会』

・2002年11月24日(日)

千葉県成田市「成田市体育館」 72チーム(400名)

この大会は、スポーツ振興基金の助成を得て、開催されるもので第5回目となる大会である。

開催地を東と西をに設定して、できるだけ大勢の愛好者が参加できるようにしてゆきたい。

20年の歴史の中で、若い世代の台頭と共に、技術、体力のレベルがアップされ、年齢のハンディキャップは、競技に直接影響し、競技する楽しさや喜びを著しく阻害してしまう。従って、シニアの大会を独立させることにより、中高年者のインディアカ愛好者の活動の場をつくる意味がある。

●『第25回全国インディアカ大会』

・2002年11月10日(日)

埼玉県さいたま市「さいたま市大宮体育館」

72チーム(400名)

「第56回全国レクリエーション大会」の中で開催される。

今回はインディアカの愛好者人口、そして技術水準が最も高い埼玉県での開催となる。

●『02オールジャパンレディースインディアカ大会』

・2002年9月29日(日)

大阪市「大阪府立体育会館」 84チーム(450名)

●『第15回全国スポーツ・レクリエーション祭』

・2002年10月5日(土)～10月8日(火)

広島県 廿日市市「廿日市市民体育館」(サンチェリー)
48チーム (480名)

- 『02 オールジャパンインディアカ大会』
・未定 (熊本県八代市で開催)

[ブロック大会]

- 『北海道・東北ブロックインディアカ大会』
・2001年9月23日(日)
福島県須賀川市「須賀川アリーナ」
- 『関東甲信越ブロックインディアカ大会』
・2002年7月14日(日)
茨城県 竜ヶ崎市「竜ヶ崎市総合体育館」
78チーム (400名)
- 『東海・北陸ブロックインディアカ大会』
・2002年11月24日(日)
三重県 鈴鹿市「鈴鹿市立体育館」 84チーム (450名)
- 『中・四国ブロックインディアカ大会』
・2002年6月9日(日)
島根県 松江市「松江市総合体育館」
72チーム (400名)
- 『関西ブロックインディアカ大会』
・2002年8月25日(日)
大阪市「大阪府立体育会館」
84チーム (450名)
- 『九州・沖縄ブロックインディアカ大会』
・2002年5月26日(日)
宮崎市「宮崎市立総合体育館」 66チーム (350名)

インディアカ国際審判員認定講習会

IIA (国際インディアカ協会) は、国際大会において主審、副審、線審等の競技審判員の認定を行っている。

この認定講習会は、国際大会と時を同じくして開催されることになっており、2001年はエストニアのタルトゥ市で第1回世界選手権大会の時に開催され、日本からは7名が参加し、試験に合格、資格を取得している。

2002年は、第1回ワールドカップインディアカ大会の時に開催される予定。

指導審判員の資格を有し、IIAの推薦があれば参加でき、資格を取得することができる。

チャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

◇開催期日：2002年10月31日(水)
10:00~18:00

◇会場：カールスルーエ (ドイツ)

◇参加費：100ユーロ (受講料、登録料、資格証、ユニフォーム代)

※資格を取得すると「第1回ワールドカップ」の審判団に組み込まれ、主審、副審、線審の役割が与えられる。

なお、第1回ワールドカップインディアカ大会は2002年11月1日(金)から11月3日(日)まで開催される。

国際交流事業

<2002 Deutsches Turnfest Indiacca in Leipzig >

ドイツにおいて100年以上も前から4年に1回開催されている生涯スポーツの最大規模の総合スポーツ大会で、本年はライプツィヒで開催される。1998年のこの大会の正式種目としてインディアカが取り上げられた。

今回もドイツから招請状が届いているので有志を募り、大会に参加する。

<大会期間>：2002年5月19日(日)~22日(水)

<派遣期間>：2002年5月19日(日)~27日(月)

<参加人数>：男女併せて20名

<1st Indiacca World Cup in Karlsruhe >

2000年5月26日にベルリン市郊外のマーローに於いて、設立総会が開催され、「国際インディアカ協会」(英語名：International Indiacca Association)、略称IIAが設立された。加盟国は、ドイツ、スイス、スロヴァキア、エストニア、ブラジル、ルクセンブルグ、日本の7か国となった。

昨年、IIAの初めての事業として「1st World Championships Indiacca」がエストニアのタルトゥ市で開催され、参加選手をはじめ大会関係者、市民に国際交流の意義と大きな感動を与えて終了した。

本年は、「第1回インディアカワールドカップ」がドイツのカールスルーエで下記の日程で開催される。

日本からも代表選手を派遣する予定になっている。

<大会期間>：2002年10月31日(木)~11月3日(日)

<派遣期間>：

10/29に成田を出発し、10/30公式練習、8/31開会式、11/1シニアの部予選、一般の部予選 11/2シニアの部決勝と一般の部準決勝 11/3一般の部3位決定戦と決勝後、表彰閉会式 11/4ストラスブル、フライブルクの市内観光、11/5チューリッヒの市内観光 11/6帰国、11/7成田到着 (8泊10日)

<大会内容>：

シニア女子の部、シニア男子の部、シニア混合の部
(男女共40歳以上)

一般の部女子、一般の部男子、一般の部混合
(男女共16歳以上)

<派遣人数>：シニアの部 (男子4名、女子6名)

一般の部 (男子4名、女子6名)

役員 2名

合計 20名

<インディアカのアジア・ハワイへの普及>

国際インディアカ協会は、ヨーロッパだけではなく、インディアカを世界中に広げて行くことを目的に掲げている。

中でもアジアに於けるインディアカの普及は、日本が進進しなければならない。

アジア各国の情報を収集し、交流する機会を見つけると同時に、在留しているアジア各国の学生、一般人との交流も計画していきたい。

また、多様なイベントを開催している団体・旅行社からの勧めもあり、日本との縁が最も深いハワイへの普及を考えていく。(本年は情報収集を行う)

インディアカ国際審判員誕生

2000年5月に国際インディアカ協会 (International Indiacca Association) が設立され、国際大会の審判を司る「国際審判員」の養成に着手した。

2001年8月、エストニアのタルトゥ市で開催された「第1回インディアカワールドチャンピオンシップ」に併せて国際審判員養成講習会が開催され、7か国30数名が参加した。日本からは7名 (男子4名、女子3名いずれも) IIA指導審判員) が参加した。

講義、実技が英語ですすめられ、最後にペーパーテスト (英文) が実施され、見事全員が合格した。

＜国際審判員資格取得者＞

2001年8月15日合格

1. 瀬戸 章嘉 (大阪府インディアカ協会理事長・J I A 指導・技術委員長)
2. 田口 久男 (我孫子市インディアカ協会会長・J I A 監事)
3. 宮城 重男 (東京都インディアカ協会理事・J I A 指導・技術委員)
4. 石井不士男 (J I A 指導審判員)
5. 西田 真弓 (寝屋川市インディアカ協会会長・J I A 理事)
6. 塩脇 紀子 (船橋市インディアカ協会会長・J I A 理事)
7. 松原 京子 (大阪府インディアカ協会理事・J I A 指導審判員)

1st Indiacca World Championship (報告)

「第1回インディアカ世界選手権大会」(2001年8月17日～19日)は、加盟7カ国が参加して、エストニアのタルトゥ市で開催された。

大会前日の夕刻より開会式典が市庁舎前広場で参加選手・役員・一般市民が参加して華やかに行われた。続いて開かれた「歓迎レセプション」は、中世に建築された煉瓦造りのレストランで心温まる歓迎を受けた。

今回の大会は、シニア男子、シニア女子、シニア混合の3部門にエントリーした。大会会場は、タルトゥ大学のスポーツホールが

あてられ、熱戦が展開された。

特筆すべきは、通訳、エスコート役を兼ねたボランティアの皆さんのサービスであった。

日本チームには、男女1名ずつ計2名の学生ボランティアが朝から晩まで本当によく尽くしていただき、感謝の気持ちでいっぱいである。

競技の結果は、男子、混合は入賞できなかったが、女子は見事ブロンズメダルを獲得、表彰式ではドイツ、エストニアをはじめ、外国選手から大きな祝福を受けた、これは、日本のインディアカの歴史を飾るに相応しい受賞である、

2002年10月には、「第1回インディアカ ワールドカップ」が開催される。今度は、シニアだけでなく一般の部にエントリーできることを期待したい。



「第14回全国スポレク祭」報告

“スポレク2001 みえ”が平成13年11月10日～13日まで三重県の津市、伊勢市を中心に各市町村で開催された。インディアカ大会は、四日市市中央緑地体育館で開催され、全国の代表が一堂に会し、競技もさることながら、ふれあい・交流をたのしんだ。

結果は次の通りである。

スポレク賞

ブロック名	順位	チーム名	都道府県名
Aブロック	1位	横浜クラブ	神奈川県
	2位	きさかた小町	秋田県
	3位	袋井ドリーム	静岡県
Bブロック	1位	ロビンフッド	大阪府
	2位	サン	石川県
	3位	錦川錦帯橋	山口県
Cブロック	1位	ザ・イーズ	埼玉県
	2位	さわやか広野	福島県
	3位	オール熊野	三重県
Dブロック	1位	黒川インディアカ愛好会	宮城県
	2位	ひろしまじゃけん	広島県
	3位	あじさい	長崎県
Eブロック	1位	東京・メランジュ	東京都
	2位	レイアース	香川県
	3位	へぐりローズ	奈良県
Fブロック	1位	フレンドシップス	千葉県
	2位	川内河童	鹿児島県
	3位	越前ガニ	福井県
Gブロック	1位	あっぷる	沖縄県
	2位	北条アカシヤクラブ	鳥取県
	3位	岐阜長良川チーム	岐阜県
Hブロック	1位	井尻インディアカクラブ	山梨県
	2位	レッド・ホース玉名	熊本県
	3位	岡崎サークル	群馬県

特別賞

賞名	ブロック名	チーム名	都道府県名
審判賞	Aブロック	アレックス	三重県
	Bブロック	牡丹山パワーズ	新潟県
	Cブロック	さくら	愛知県
	Dブロック	四日市探検隊	富山県
	Eブロック	ギャートルズ	愛媛県
	Fブロック	アパッチ	長野県
	Gブロック	北ウイング	徳島県
	Hブロック	ひじょうこく	大分県
大入道賞	Aブロック	粕谷フレンズ	福岡県
	Bブロック	一番搾り	茨城県
	Cブロック	柏村印刷	島根県
	Dブロック	N.K.C	山形県
	Eブロック	インディ愛華	京都府
	Fブロック	玉生宿クラブ	栃木県
	Gブロック	フェニックス兵庫	兵庫県
	Hブロック	シリアル・マヨネーズ	高知県
アイミー賞	Aブロック	和歌山吉宗ファミリー	和歌山県
	Bブロック	倉敷ハートクラブ	岡山県
	Cブロック	アップルーズ	青森県
	Dブロック	G・Iクラブ	佐賀県
	Eブロック	栗東パイレーツ	滋賀県
	Fブロック	インディーW's	北海道
	Gブロック	インディアカ・宮崎	宮崎県
	Hブロック	大野	岩手県

新競技規則の主な解釈

競技の特徴

インディアカは、ネットによって分けられたコート上で、2つのチームによって行われるチーム・スポーツである。

インディアカは、インディアカボールを競技規則に従って、味方コートにインディアカボールを落とさないようにし、ネットを越して打ち返し、相手コートに落とすことを目標とする。

インディアカは、後列右の競技者によって、インプレイの状態におかれる。後列右の競技者は、サービスを行い、インディアカボールをネットを越えて相手コートに打ち込む。

チームは、相手コートに返すために3回（ブロックの接触に加えて）プレーすることができる。

1人の競技者は、ブロックとネットに打ち込んだ場合を除き、連続して2回インディアカボールに触れることはできない。

ラリーは、インディアカボールがコートに落ちるか、正しく打ち返せなくなるまで続けられる。

サービングチームは、ラリー終了ごとに1点が記録され、サービスを続行する。

レシービングチームは、ラリー終了ごとにサービスと1点が記録される。

そしてこのチームの競技者は、時計回りに一つずつポジションを移動する。

ローテーションによって、すべての競技者は、コートのネット際とバックの両方で競技することを保証されている。

チームは、2点差をつけて21点を得点することによって、そのセットの勝者となり、2セットを得ることによって、その試合の勝者となる。

ゲームを運営するためには、競技規則を個々に記憶するだけでなく、競技規則が求めているバック・グラウンドを理解して、競技の特性を知り、競技規則の内容とともにその取扱い（規則の解釈）を十分に理解しなければならない。

解釈

①競技者がボール部分に接触したとき

・競技者が故意にボール部分を支えとしてのプレーは反則となる。

（例）センターラインの踏み越しを避けるため、ボール部分を支えとして相手コート空間に進入したとき。

②男女混合チームの競技者の構成

・男女混合チームの場合、女子競技者が負傷により1名となったときは、没収試合の対象となる。

③ジャンケンによるコートおよびサービスの選択のとき
・ジャンケンに勝った主将が優先的にどちらかを選ぶことができる。

④サービスエリア内に両足を置きサービスをするとき
・「サービスエリア内に両足を置き」とは、サービスエリア外から走り込んだり、ジャンプしてのサービスではないことを意味しています。

・サービスの動作に移り、サービスの瞬間アンダーハンドの一連の動作中に片方の足が床から離れるのは許される。

⑤サービスのサイドハンド打ちのとき

・サービスのサイドハンド打ちの目やすは、サービスの瞬間のインディアカボールの位置が腰よりも高く、スイングの手が身体を中心線を越える横振りが確認されたとき。

（例）サイドハンド打ちの競技者に1回は注意を与えるという審判がいるが相手チームが正当にプレーしていることを考えるならば、反則としなければならない。

⑥サーバーの誤りのとき

・サーバーの誤りは直ちに反則とすることを基本とする。

・「ケースに応じて」の故意に行なったと判断するときの目やすは、サービスエリアに立った競技者がコート内の競技者に順番を確認することが多いチーム。
・あるいは、一旦サービスエリアに立った競技者が再びコート内に戻り、別の競技者がサービスエリアに戻りサービスする状況が多いチーム。

⑦スクリーンのとき

・「サーバーの行動をかくす目的」をもつスクリーンの目やすは、

・サービス開始の吹笛からサービスの瞬間までの間、相対する競技者の移動に合わせて体を移動させているとき。

・2人以上で群をなしてネット際で静止しているとき、サービスされたインディアカボールが低い飛行線で群をなしている頭上を通過したとき。

⑧ブロック競技者のドリブルのとき

・競技者はブロック及びネットに打ち込んだ場合に限り同一競技者が続けてインディアカに触れることができる。

・チームに許された許容回数と一人の競技者に許された許容回数を区別しなければならない。

⑨ホールディングのとき

・ホールディングは、見えたものだけを取り上げるべき（疑わしきは罰せず）

・スパイクによるホールディングやドリブルを緩和さ

